

第18回

文化と持続可能な開発の国際潮流

行方市SDGs推進アドバイザー・茨城大学教授 野田真里

1. 私たちの生活を豊かにする文化・国連教育科学文化機関（UNESCO）

文化は開発つまり私たち生活を豊かにするうえで、なくてはならないものです。行方市においても、文化は重要な地域資源として、豊かな自然環境、農業生産、長い歴史とならんで位置づけられています。持続可能な開発の3本柱は、経済、社会、環境とされていますが、加えて文化が「第4の柱」として注目されています。ここでは、文化と持続可能な開発・SDGsをめぐる国際潮流についてご紹介しましょう。

国連教育科学文化機関（UNESCO）は、『文化的多様性に関する世界宣言文化』において次の通り述べています。文化とは「特定の社会又は社会集団に特有の、精神的、物質的、知的、感情的特徴をあわせたものであり、芸術・文学だけではなく、生活様式、共生の方法、価値観、伝統及び信仰

も含むもの」としています。そして「文化の多様性は開発の根本の一つであり、それは単なる経済成長を意味するものではなく、より芳醇な知的、感情的、道徳的そして精神的な生活の手段である」（UNESCO 2001）としています。

2. 持続可能な開発の「第4の柱」としての文化・都市・自治体連合（UCLG）

これを受けて、都市・自治体連合（UCLG）では、「文化・持続可能な開発の第4の柱」という政策文書を、2010年メキシコシティで開催された、「地方・地域首脳会議（第3回都市自治体連合会議）」で採択しました。ここでは、持続可能な開発と「第4の柱」としての文化の関係を次の2つに整理しています。第1に、文化分野それ自体の開発です。例えば遺産の保護、文化産業、手工業、文化観光の振興等が挙げられます。そして、第2に、文化をあらゆる公

共政策の分野において適切に位置づけることです。とりわけ、教育、経済、科学、通信、環境、社会的包摂や国際協力の分野において重要となります。自治体の国際的な連合体であるUCLGは、文化を地域社会の持続可能な開発に位置づける積極的な取り組みを行っており、「文化のためのアクション21」（2004）、「文化21：アクション」（2015）、「持続可能な開発目標における文化」（2018）等の政策文書を発表してきました。

3. SDGsにおける文化

こうしたUNESCOやUCLGの議論を受けて、2015年に国連総会で採択されたSDGsを含む『持続可能な開発のためのアジェンダ』においても、文化の役割が強調されています。目指すべき世界の姿の一つとして、「人種、民族および文化的多様性に対して普遍的な尊重がなされる世界」（パラグラフ8）が挙げられています。さらに、「我々は、文化間の理解、寛容、相互尊重、グローバル・シチズンシップとしての倫理、共同の責任を促進することを約束す

る。我々は、世界の自然と文化の多様性を認め、すべての文化・文明は持続可能な開発に貢献するばかりでなく、重要な成功への鍵であると認識する」（パラグラフ36）と位置づけられています。

Box: SDGs ターゲットと文化

4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

8.9 2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。

11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。

